



思考への探求

校内研究だより

令和6年9月10日

No.(2)

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～



本校では昨年度から「学ぶこと・考えることを楽しむ」を研究主題として、全教科を通して日頃から取り組んでいる。

9月10日に、6年2組にて「英語科」の村田友貴教諭と Andy Goheen 教諭が今年度第2回目の校内研究授業を行った。

本時は「Black Box」の中身やカードの絵を当てるために、その色や形を「What」を使った疑問文で聞いたり答えたりしながら、そのやり取りができる。」というめあてで授業が進められた。9月にシンガポールの子どもたちと交流を兼ねて、クイズを出す授業がある

ことを見据えて、本時はこのようなめあてになった。

最初の30分を使って、5W1Hの確認や Black Box の中身を当てる、ゲームのルール確認を Andy 先生との会話を交えながら行った。残りの15分で、今回のめあての通り、子どもたちがお互いに活動的に学び合う姿が見られて授業が終了した。

研究協議会では、相模女子大学小学部の小泉清裕校長先生をお迎えし、授業の指導・講評をいただいた。人間は間違いがあって当たり前であり、今日の授業は子どもたちが恐れずに学習しようとしていて良かった。しかし、教師が日本語を使いすぎている。とご指摘いただいた。後で先生が日本語で話してくれるから、子どもは英語を聞かなくなる。土台である聞く力が弱いから、書く読む話す力ができなくなる。小学校の

ころから土台である聞く力をつけるべきである。とのことだった。その後、様々な教材を実践的に使って実際の授業のようにご教授くださった。その内容は、どれも引き込まれるものばかりで、英語を楽しいものにするのでなく、学習内容を



を楽しめるように教材研究を重ねなければならない。これは、英語のみならずどの教科においてもいえることだと改めて考えさせられた。実際の授業が行われているかのように、あっという間に終わりの時間を迎えた。

今回の村田教諭と Andy 教諭の授業を通じた学びを生かし、また、小泉先生から学んだことを生かしながら、文教大学付属小学校全体で各教科の授業の質を高めていきたい。

